

「ダーナ」とはサンスクリット語で、[布施]の意。

ダーナ●第13号

発行日●平成20年12月22日

編集／発行●浄土宗平和協会(JPA)

発行人●荻野順雄

Jodo Shu Peace Association

新事業が順調に

浄土宗平和協会(JPA)の新事業「ブック・ギフト」の希望書籍授与式が11月、大本山増上寺で行われ、20カ国75人の私費留学生が個性あふれる小論文「私の見た日本」を寄せ(2-5P参照)、希望の本を受け取った。

もう一つの新事業で、社会参加のお寺を顕彰、支援する「浄土宗平和賞」は、1月末によいよ推薦締め切りを迎える。5月の総会までに、受賞寺院の選考を行い、総会の席上授賞式を行う(6P参照)。いずれも運営費は、すでにことし200人を超えた会員からの会費でまかなわれている。

NGO支援と緊急支援

世界で活躍する日本のNGO(非政府組織)を支援する「平和念仏募金」は、本年も日本国際ボランティアセンターなど5団体に贈られた。

インドのダリット(カースト下で差別された人々)の子どもたち、パレスティナ・ガザ地区で栄養不足に陥る子どもたち、レバノン難民キャンプの生徒補習クラス、ミャンマー難民のための図書館、バングラデシュで少数民族紛争被害の教育など、世界各地で有効に利用されているという報告が、事務局に寄せられている。

ことし、5月に相次いで発生したミャンマーサイクロン災害、中国四川省大地震災害に対し、「平和念仏募金」の緊急募金を行ったところ、

ブックギフト授与式挙行 共生世界を願い 活動を一段と加速

全国の御寺院から、548件、1200万円を超す浄財が寄せられた。

世界仏教徒連盟経由ならびに、ビルマ救援センター経由でミャンマーの寺院復興、被災民支援、米国ロックフェラー財団経由で、中国四川省少数民族の教育支援に充てられていると事務局に報告された(9P参照)。

平和を願う輪広まる

浄土宗は、11月広島市で行われた世界平和念仏別時会で「平和アピール」を表明し、平和の礎を築くことを誓った。この平和アピールはJPAが組織した専門委員会で何度も推敲され草案が作成された(8P参照)。

JPAは、今後も浄土宗教師、寺族対象の会員募集ほか、檀信徒、一般団体にも会員を広げ、賛助会員を募集する。また、支部設立の動きも始まり、平和を願う輪が、ますます広がっている。

増上寺大殿で荻野JPA理事長より希望図書を受け取る唐斌さん(慶應大)



ブック・ギフト——希望する本を贈る！ 留学生からみた日本とは

大本山増上寺に希望の本を受け取る笑顔があふれた……。

浄土宗平和協会がはじめて取り組む私費留学生希望図書支援事業、「ブック・ギフト」の書籍授与式が11月30日、行われた。都内の大学20校から8カ国75人の応募があり、「日本の自然、科学技術などに目を見張る」、「日本人の人情に心うたれた」など数多くの作文「テーマ・私の見た日本」を寄せてくれた留学生が、増上寺大殿に集まった。日本の伝統仏教の儀礼に感動し、はち切れんばかりの笑顔で本を受け取る姿が見られた。

「ブック・ギフト」は、円高で物価高の東京で、苦労して日本の文化を学ぶ私費留学生を対象に、1万円以内、合計2冊までの書籍を、プレゼントしようという初めての企画。JPA事務局は、100点を超す希望の図書を取りそろえ、授与式に備えた。当日の参加は、アルバイトや試験などで欠席届を出した留学生をのぞき61人。中国、韓国を中心に、ペルーやロシア、インドネシアなどの学生の姿も。大殿阿弥陀如来の前に学生は着座し、興味深そうに奉告法要を体験した。荻野JPA理事長より、代表して慶應大学大学院の唐斌さん(中国)が、書籍



増上寺に集まった留学生たち

を受け取り、「平和に役立てるよう今後も勉学に励みたい」とお礼の言葉を述べた。

儀式終了後、JPA事務局よりそれぞれ希望の図書を、一人一人手渡され、すがすがしい笑顔が会場にあふれた。希望図書は、多岐にわたり、専門書、辞典、図鑑、コンピューター関連書籍など(一覧参照)。浄土宗檀徒の書店「Booksルー・エ」(武蔵野市、永井隆社長)の協力で、本を割引価格で提供していただいた。

たらされた経典にささえられ浄土宗を開宗されました。この事業は言わば留学生の貢献によって発展したことに感謝し「恩返し」の意味を含めての企画です。

留学生の勉強と生活の両立は大変だと思いますが、ぜひこれらの本を勉強に生かして下さい。皆さんもお国に帰られれば指導的立場になられるでしょう。日本での経験を生かして、民間外交に励まれ、それによって世界各国が平和に共存、共生(ともいき)できるような活躍をしてほしい。

この企画の費用は全国の浄土宗のお寺とその檀信徒の気持ちで込められた尊い募金を使わせていただいたもの。この気持ちを大切に受け止めてほしいと考えます。最後に皆さんに心から感謝申し上げ、協会を代表しての挨拶いたします。



JPA 荻野理事長は、大本山増上寺での「ブック・ギフト」希望図書授与式で、留学生に対し、以下のように述べた。

● 増上寺へようこそ。ここに来ていただいたのは東京の中心にある歴史豊かな寺院という日本の文化に触れて、良い思い出を残してもらうためです。たくさん応募してくれてありがとうございます。レポートも素晴らしいものばかりでした。

日本仏教は、古代に遣唐使として渡った高僧が、学んだ仏教を日本に持ち帰り日本で花が開きました。法然上人は留学こそされなかったが、留学生によっても

美しい国——日本

唐斌
(中国・慶應義塾大学)

最初に日本に興味を持ったのが大学時代でした。京都の古い町や北海道の広い自然に憧れていました。

そして今回、日本に来た理由は、現代の経済発展と先進的な企業システムに関心を持ち、是非私の祖国—中国にも、日本のように豊かになってほしいと思い、大学院で中小企業の融資の研究を決心しました。ところが、最近テレビで学校の「いじめ事件」のニュースを見て、私のイメージした美しい日本とどこかが離れたように感じ、悲しくなります。

私は中国で、日本についてこんな報道を見たことがあります。『日本の戦後の貧しい時代に、教室がなかったため、皆は運動場に座り、膝の上に本を載せ、先生の説明を一生懸命に聞きました』

このシーンが多くの中国人に強い印象

を与えてくれて、日本人と言えば、勤勉で、学習・仕事に真面目だとみんなは思っています。実は、私の家族もそう思って「文武ちゃん、日本人の精神を学び、知識をたくさん身に付けて中国にかえってきなさい!」と、私の日本留学をサポートしてくれました。

日本は中国より、教育環境などずっと良くできています。こんなに豊かになった変わりに、何かを失ったのではないのでしょうか?

おそらく答えは夢でしょう。戦後の日本人は「国を豊かにする」という夢を持って、どんな厳しい条件でも諦めずに辛抱して頑張ってきました。今の幸せな学生たちは夢をちゃんと持っていないで、変な行動に出たのではないのでしょうか?

ハイテク社会の日本は、世界2番目の経済大国になり、日本人の誇りになりました。しかし、人生のため、家族のため、さらに国のために夢を持って頑張っていく若者たちこそ、日本の1番大きな財産であり、将来日本を一流の国を作るエネル

ギーの源だと思えます。

美しい日本は、美しい夢を持つ日本人によって作られると思えます。私は一人の外国人として、大好きな日本で、さらに美しい国——日本をみんなと一緒に迎えていきたいです。

やさしい言葉の習慣

李秀貞

(韓国・立教大学)

今年の10月に入りまして、ちょうど来日して4年目になりました。外国で見知りあいないなまま、一人で始めた生活はやさしくはありませんでした。

もちろん楽しいこともたくさんありました。日本語学校から大学院の研究生になって、今の院生になるまでいろいろな経験をしました。前だけを見て走った4年になって、今やっと生活が落ち着いた感じですか。今の自分にとって一番大事なことは修士論文を書くことです。なかなか

ブックギフトが朝日新聞に掲載



ブック・ギフトが、朝日新聞で紹介されました。ことし10月4日付けの首都圏版の記事で、「留学生らが見た『心温まる日本』——募集中の小論文につづる」の見出しで報道されました。

執筆は、東京本社文化グループの記者で、ブックギフトに寄せられた小論文「私の見た日本」の中から、応募者の了承を得て、数編紹介しています。日本人と私費留学生の、暖かで細やかな交流や、日本社会についての意外な考察などが、記事として配信されています。また、ブックギフト応募についての、情報も掲載されており、この記事によって、応募してきた留学生も数多く、ブックギフト事業の大きな励みとなりました。

ブック・ギフトで私費留学生に提供した書籍の一部(例)

コーポレートファイナンス(上)、サイトカイン・増殖因子、民法1V補訂版 親族・相続、ケース・スタディの方法、越境の人類学—在日パキスタンムスリム移民の妻たち、池田勇人政権の対外政策と日韓交渉
心理学(New Liberal Arts Selection)、コンピュータネットワーク第4版、「少子化とエコノミー：パネル調査で描くアジア」、マンキー経済学「第2版」マクロ編、他文化主義社会の福祉国家 カナダの実験、テクニカルライター英和辞典(増補新装版)、染色・バイオイメージング実験ハンドブック、広辞苑6版
蒙地奉—満州国の土地政策、都市のイメージ、解説化学工学(改訂版)、領土ナショナリズムの誕生、TOKYO TDC Vol18、計量経済学大全、日本語教育辞典 縮小版、中国シルクロードの女性と生活、カーボンナノチューブの基礎と応用
判例で読む米国特許法—新版、基礎日本語辞典、大辞林 第三版、新版 日本語教育辞典、VisualC++2005(ビギナー編)、Eclipseプラグイン開発徹底攻略、心理学辞典、コーポレートファイナンス(下)、シグナル伝達入門、西洋名画の読み方1、ロジカル・シンキング、戦後改革と逆コース(日本の時代史26)
新心理学の基礎知識、自己PRの書き方、「できる大辞典 ExcelVBA2002/2003/2007/対応」、マンキー経済学「第2版」ミクロ編、連帯と承認 グローバル化と個人化のなかの福祉国家、MATLABによる振動工学—基礎からマルチボディダイナミクスまで、英語医学論文作成術、

か進めない日もありますが、自分がやりたい研究を論文にして完成させたい気持ちを強く持っています。

日本では学ぶことがたくさんあります。まず、私は、「ありがとう、すみません」の言葉が好きです。自分の国では比較的にこのようなやさしい言葉を口から出すことが苦手な人が多いかもしれません。

このような言葉遣いを初めて経験したときは、ただ口癖みたいに「ありがとう、すみません」と言っているような感じも思いましたが、今は全然そう思わずにやさしい言葉を使っているそれ自体が素晴らしい習慣だと思っています。もう自分は口癖で「ありがとう、すみません」を連発するようになって、国に帰ったとき“どうしたの？”と言われたこともあるぐらいです。

次は、助け合うことです。現在私は大学院で障害を持っている方の福祉支援について勉強させていただいています。それで去年9月5日～8日まで、第7回世界障害人権韓国大会(DPI)が開かれた当時、知的障害を持っている方たちの当事者団体、ピープルファーストジャパンのサポートをしました。

日本から、できるだけ大勢の方と一緒に参加したいという願いはたくさんの方からの助けがなかったら実現できなかったかもしれません。その時の日韓の交流は今でも続いています。

あいまい性のおもしろさ

グエン タン トウン
(ベトナム・東京農工大学)

電車の中で、二人の学生が話している。男子学生「明日、映画行かない？」女子学生「あしたは、ちょっと……」。この会話を聞いて、女子学生は映画へ行くとするか、いかないと思うか。

私は、日本の技術が好きなので、日本に留学することを高校の時に決心した。日本に留学するのに欠けてはいけないものはやはり日本語である。日本語は、漢字がない国からの留学生にとって、問題なことになる。日本語は世界の言語の中でむずかしい言語のひとつだと言われている。原因は漢字が多い、文法が英語の逆であることをあげられる。しかし、漢字や文法は一生懸命に勉強すると、解決でき

ると思う。私が、日本語を勉強している人にとって、日本語の上述のようなあいまいなことをしっかりわかるまでに、日本語ができると言える。そんなことができるのは日本で生活して、日本の文化に侵入するしかないと思う。

初めの話に戻ると、日本語では「できません」や「ダメです」などの否定の言葉なるべく使わないようにする。自分のほうからはっきり断然なくても、相手の人が自分の気持ちをわかってくれるようにする。それは、相手の人との親しい関係を壊さないようにとか、相手の人を傷つけないため、とか言われている。

私の日本語の先生から聞いた話であるが、ある国際交流会の終りに、別れに、先生が「どうもありがとうございます。時間があったら遊びに来てくださいね。私の家に」と言った。それで、話しているアメリカの留学生が「はい。いつですか？」ときいた。先生がとてもびっくりして、何も言われなかった。先生の言葉は誘う言葉であるが、誘うことではない。それはたださよならのことだけである。他の言語、特に英語では、日本語より明確性が深いんだ。

それを言っても、いつも明確なことではない。かえって、日本語のあいまい性は日本語のおもしろさになる。前の例では先生がそう言って、その学生を家に誘うつもりではなく、その学生との関係、つまり関係の糸を切らないことを表した。私の日本語力もまだまだだが、自分の体験と知ること限りで、日本語を勉強している人に日本語を勉強すればするほど日本語を好きになるはずだと伝えたい。

「和」の国、日本

陳 嵩
(中国・東京大学)

私も同年代の青年と同じように、激しい反日教育を受けながら、中国において学生時代を送ってきました。イメージに刻まれた残酷な日本人の姿と、身の回りに満ちている日本の優良な電気製品や人気漫画とアニメから出てくるかわいいキャラクターの間に大きなギャップを生じて、日本に対する感情は複雑、というより混乱と言える状態でした。

このような私は、日本の土地を踏んだ

から、自分の身をもって、真実の日本を感じられるようになりました。「日本の満員電車はすごい!」「通勤時間に皆は走っている!」「日本の会社員は12時に仕事が終わる人がたくさんいる!」といろいろを見て、日本人は本当に勤勉で、頑張っているなあと感じていました。

身の回りに接触する日本人たちはみんなやさしくて礼儀も正しい、いい感じでした。特に日本人は他人に対する思いやりをもって、しかも社会規範をきちんと守っています。例えば、電車の中で携帯電話を使用するのは私の国では普通なことだけど、日本ではマナー違反の行為です。このマナーに違反した人は周りの人の目線に警告されて、こうするとみんなマナーを守る意識が強くなると思います。

日本のもうひとつ優れているところを言うと、伝統を守る意識だと思います。現代化の都市に歴史から残された香りはあちこちで感じられます。伝統の職人に対する尊敬や、伝統の劇などを継承する方々に与える高い社会地位、伝統スポーツをやっている方々への崇拜など、このような歴史への尊重と継承の気持ちは真に素晴らしいところだと思います。

私の目で見た日本は先進国で、国民は豊かな生活を送っていると思いつつ、日本人としてたいへんだなと感じるところもあります。例えば、集団への従属とか自分の個性を抑制するとか……。

日本文化を吟味しながら、楽しい留学生活を送っている私にとって、日本は「和」の国です。

人との出会いを大切に

黄 均鈞
(中国・武蔵野大学)

今年の9月4日、やっと念願の日本にきました。初めて日本に着いたばかりの時、一番ショックだったのは道の狭さです。しかし、こんな狭い道路にたくさんの車、バイク、歩行者、自転車は通っているにもかかわらず、渋滞しないことにはもっとびっくりしました。そして、翌日東京へ行くことに決めました。

翌日の朝、今まで一度も乗ったことがない電車に乗り、高田馬場へ出発しました。そして、人のまねをして、やっと切符

を手にいれました。しかし、いったいどちらの車両が東京へ行くかぜんぜんわかりませんでした。「あの、すみません、新宿へ行きたいのですが……」と道を尋ねるしかありません。「あっ、新宿ですね。高田馬場に降りて、JRに乗り換えて……」非常に熱心に教えてくださいました。

話しているうちに、電車がきました。「お先に、どうぞ」と言いましたが、お祖母さんは「いいえ、どうぞ」と。十秒ぐらいの譲り合いでやはり私は先に乗りました。「日本の方、みんな礼儀たっだいですね」と私は言いました。「いいえ、いいえ、今の日本の若者はだめですよ。外国人のほうはもっとすばらしいですよ。まだ、若いでしょう。がんばってね」とまったくお世辞ではなくやさしく話しかけてくださいました。「私は、次の駅でおりますよ。高田馬場は次の次、大丈夫ですか」と言って、電車を下りました。でも、私をびっくりさせたのは、おばあさんはすぐ立ち去ることなく、電車が再出発するまで見届けてくださいました。

行きずりの人なのに、おばあさんはやさしく、熱心に道を教えてくださいました。10年前の私は、日本語と出会い、そして今年の9月に日本と会いました。しかし、この間偶然に電車のホームで出会ったおばあさんは、またいつ再会できるのかわかりません。

これから、おばあさんのように思いやりの心を持って、人との出会いを大切に、そうすれば、またおばあさんに会えるでしょう。

日本ってどんな国

呉 晨君
(中国・一橋大学)

“日本ってどんな国?”
ある日、中国国内在住の友達とネットチャットをしているとき、私は、彼に質問された。“日本はいい国だよ。善良で、勤勉な人がいっぱい、礼儀正しい国だよ”“それは教科書や参考書にも書いてある。あなたのみた日本はどんなの?”どうやら、彼は、私の答えに少々不満のようだ。“日本に留学しているんだからさ、もっと具体的なものを教えてよ!”“そうだね……”

日本は英語が全然通じない国?

日本人は英語がかなり苦手のようなのだ。初めて日本に来たとき、私は成田空港から横浜行きのリムジンバスに乗っていた。その日は道が大渋滞で、乗車時間はなんと4時間! おまけに、停車駅で待っているはずの友人の姿がない! 当時まだ日本語が話せない私は、友人の住所を書いた手紙を片手に、英語で道を聞き始めた。でも、日本人の英語に唖然! カタカナのような発音で、かなり難解でした。

日本は親切で、心で通じる国?

英語での道聞きは失敗したようで、私はかなり落胆していた。でも、そこで人に道を尋ねるのをやめる訳にはいかない。泣きそうな顔で、英語を話せそうな人を選んで声を掛けたりしました。そこで、あるサラリーマンが現れた。彼も英語はできないみたいだが、すごく親切で、自分の行く方向と違うのにもかかわらず、私を交番まで連れて行ってくれた。そして、交番の警察もすごく親切で、地図をコピーしてくれたりして、2、30分もかけて道を説明してくれた。

残念なことに、当時日本語のまったくわからない私にとっては、全てが無駄だった。結局、パトカーに乗せられて友達の家へ直行!

日本での留学生活を通して、私の心の中で、善良で、勤勉で、人間性に溢れた日本人のイメージを描き上げた。バイトの休憩室で“疲れたでしょう”といいながら、私の手に缶コーヒーを差し入れてくれた日本人のおばさん。授業後も熱心に私に授業内容の理解確認してくれる日本人教授。バイトで多忙な私の都合にあわせ、徹夜して共同発表のゼミ論文の資料を集めてくれた日本人のゼミ生……。

日本のすべてが見えたとは言えないものの、私が、胸を張って“日本はこんなにいい国だ”と言えるようになった。

郷に入っては郷に従え

ジャフリーナ・アンナ
(ロシア・国士館大学)

私が日本に来て、もう一年経った。日本に来る前に日本語と日本の文化を勉強した。しかし、この目で見た日本は本やテレビで見た日本と全然違った。

ブック・ギフト in Tokyo 贈呈内容

- 図書贈呈者総数 75人 (男性22人、女性53人)
- 応募者国別一覧 中国51人、韓国14人、台湾3人、ロシア2人、インドネシア2人、ベトナム、ミャンマー、ペルー各1人
- 応募者大学別一覧 東京大学14人、武蔵野大学13人、立教大学12人、明治大学、お茶の水大学、東京語文学院(語学学校)各6人、慶應大学、国士館大学各3人、首都大学東京、杏林大学各2人、一橋大学、武蔵大学、順天堂大学、東京農工大学、駒澤女子大学、東京学芸大学、東京電気通信大学、駒澤大学、早稲田大学 各1人
- 応募者在籍一覧 大学院生(研究生)45人、大学生24人、短大生0人、各種学校生6人

ロシアから来た私は日本人の優しさや日本のサービスに驚いた。ある日、私は道に迷った。日本人のおばさんは丁寧に道を教えてくれて、私の家まで送ってくれた。これは本当に感動したことだった。それだけではなく、どんな店に入っても店員がニコニコしながら「いらっしゃいませ」と言うので気分がよくなる。

しかし、2・3ヵ月経っても、私は日本人となかなか友達になれなかった。なぜ友達ができないかということに心を痛めた。日本人がみんな冷たいのか私の日本語がおかしいのかと悩んだ。

それから、テレビでニュースを見始めてから、日本の社会の問題がわかるようになった。日本人は忙しい人が多い。だから、日本人は私と一緒にお酒を飲んだり、映画を見たりする時間がない。私が外国人だから私と友達になりたくないわけではないことがわかった。

今、私がアルバイトをしているレストランの店長はいつも仕事の内容だけでなく、日本語も丁寧に教えてくれる。店長には今年の夏、私の母が日本に来るときもいろいろお世話になった。

実は、どんな国にもいいところもあるし、悪いところもある。だから、私は日本のあまりよくないことに直面したとき、いつも「郷に入っては郷に従え」という諺を思い出すようにしている。この諺を外国人はルールにするべきだ。日本は私の故郷ではないのだから、「これは日本の嫌なところだ」と外国人である私が言うてはいけないと思う。まず、悪い所だときめつけるのではなく、自分の考えを直したほうがいだろう。

第1回浄土宗平和賞 締切迫る！ 1月末締め切り

戦後の高度成長時代を経て日本の社会は大きく変化を遂げてきました。都市化、産業化、大衆化の波は共同体や家族の崩壊をもたらし、地域社会の同質性から異質なものへの変化は数々の社会問題を引き起こしています。

寺請制度のもと「いえ」や「むら」という共同体の中に、寺院や仏教が機能していたかつてのシステムはもはや終焉しつつあるように思います。このような状況に地縁・血縁を基とした伝統的寺院のあり方に加え、「むら」や「いえ」を超えた分断化された個人の共存する地域コミュニティの再構築、共同体の回復の核となる役割も期待されています。

浄土宗平和協会は「共生」の理念を基に、公益に資する未来の寺院のあり方を模索し、一切の生きとし生けるものの安穩と平和を願う仏教者として「社会参加する仏教」を推進しています。

- ◆賞の内容
賞状・副賞(30万円)
- ◆対象
浄土宗寺院・教師
浄土宗教師、寺族が代表(中心的な役員)を務める団体
- ◆選考方法・表彰
浄土宗平和協会が選定する平和賞選考委員会(有識者などで組織)によって選考し、本協会総会の席上、表彰し副賞を授与します。(第1回は、平成21年5月の総会において表彰します)
- ◆募集方法
1. 公募(自薦他薦問わず)

- 2. 教区長、教化団長、地方教化センター委員長、浄土宗平和協会会員による推薦
- ◆応募・締切
所定の推薦書(各教区、浄土宗平和協会に発送)に必要な事項を記載の上、当協会事務局まで郵送して下さい。応募の締切は平成21年1月末とします。
- ◆受賞対象の活動事例について
以下は、平和賞の候補となる活動事例の一部をあげたものです。これに合致するものが受賞するという意味ではありません。

※地域NGOを組織し、町並み保存、伝統的景観保存などまちづくり運動を行っている。

社会参加するお寺の活動紹介

防災てらまちウォーク

去る11月28日、大阪市天王寺区の下寺町で「防災てらまちウォーク」が開催、34名の市民が僧侶スタッフとともに半日のまち歩きを体験しました。主催は、同区大江組の浄土宗寺院の若手僧侶の会・三帰会(会長:秋田光彦大蓮寺住職)。共催は仏教NGOネットワーク、また財団法人シャンティ国際ボランティア会が運営協力にあたりました。

下寺町はその名の通り、350年前から続く都心の寺町で、大蓮寺を先頭に南北に約1キロにわたり伽藍が並んでいます。近年、都市型断層として注目される上町断層が、下寺町に並行するように走っているところから、このたびの企画を立案、「もし地震が発生したら、寺町に何が出来るか」を想定して、会場寺院ごとに多彩なプログラムが実施されました。

当日は、新聞やインターネットで公募された20代から60代の34名が参加、出発地点の良運院で、天王寺消防署木下清文地域

担当司令の講演を聴講、次に幸念寺では震災時に最も重要となる水の確保について、同寺の井戸の見学や浄化水の講義を受けました。

西照寺では、昼食として緊急非常食のアルファ化米を試食、意外に美味と好評でした。金台寺では、「いのちの智慧に学ぶ」と題し、阪神淡路大震災まち支援グループであるNPOまち・コミュニケーションの田中保三顧問と、大阪ガスエネルギー文化研究所の弘本由香里客員研究員による対談がありました。源聖寺会場では、お寺が緊急避難所になったと仮説した全員参加型のワークショップを開催、予期せぬ事態をどのように解決するか、生きた学習を行いました。

そして、最後に應典院で、アユス関西の服部隆志事務局長と、シャンティの白鳥清文さん、秋田光彦さんが「寺はいのちの広場となりうるか」と題したセッションを行

い、終了となりました。全体で6時間以上の長丁場でしたが、天候にも恵まれ、参加者の満足度もたいへん高いものとなったようです。

「一時的避難所として、また救援ボランティアの拠点として寺にはいろいろな活用が考えられることがわかりましたが、もっとも大切なことは、相互に助け合う地域の絆をつくっていくこと。ふだんの地域のつながりづくりが一番大切だと感じました」と三帰会事務局長の国子克雄(光伝寺副住職)と語ってくれました。

道中、ところどころで、詩人の上田假奈代さんが、ご本尊前で詩の朗読を奉納、多くの犠牲者に供養のこころを届けながらのウォークになりました。



社会参加のお寺を支援し、顕彰する「浄土宗平和賞」(JPA主催)の推薦締め切りが、来年1月末日に迫っています。推薦者は、浄土宗平和協会会員並びに、各教区教区長、教化団長、地方教化センター委員長で自薦他薦を問いません。応募要項を再掲します。

- ※福祉NGOを地域の方々と共に設立し、自殺防止活動、引きこもり対策などの事業を行っている。
- ※国際交流団体を檀信徒が中心になって作り、海外の恵まれない人々への支援を継続的に行っている。
- ※日本で生活する留学生に奨学金を送り、生活の支援を行っている
- ※日本文化の紹介のために、地域と一緒に、寺を会場にお茶やお花、能楽などのフェスティバルを行っている。
- ※地域の盆踊り大会を主催し、町を挙げての一大イベントになっている。

浄土宗の公益教化事業団体である「浄土宗社会福祉協会」「浄土宗保護司会」「浄土宗保育協会」「浄土宗スカウト連合協議会」などに属する「保育園」「幼稚園」福祉諸施設経営、ボーイスカウト、保護司、教誨師などの活動は、浄土宗平和賞の応募対象には含まれません。

《応募先／お問合せ》

浄土宗平和協会事務局 担当: 富田
〒605-0062
京都市東山区林下町400-8
浄土宗人権同和室内
TEL: 075-525-0484
FAX: 075-531-5105
E-mail: jpa-info@jodo.or.jp
HomePage: http://jpa.jodo.or.jp

私も浄土宗平和協会

京都教区西念寺
白簾文雄 師



私も浄土宗平和協会の第3回目は、京都教区宇治組西念寺の白簾文雄師です。「途上国の子どもの状況が気になって……」というのが入会のきっかけとか。日ごろ幼稚園・保育園の園長として奉職されている白簾師らしく、世界の子供たちに幸せを、という願いを感じました。浄土宗保育協会の理事長として、浄土宗平和協会の活動協力も考えたいとか。白簾師におたずねしました。

今、日本は豊かな国になって、子どもたちも恵まれた環境に育っています。心の貧しさを感じる凶悪事件が連日報道されると、本当の意味での豊かさを享受しているかと考えれば疑問符がつきますが……。

世界に目を向けると、3秒にひとり、貧困が原因で子どもが命を落としています。世界銀行の推計だと、2005年時点で貧困層(世界銀行の基準で一日1.25ドル未満の生活を強いられる人たち)は実に14億人だそうです。

平和な中にいると、なかなか実感したいことですが、宗教者として「世界に共生を」を考えずにはいられません。この日本にいながら、何かができるはずだと思います。

私が浄土宗平和協会の会員となったのは昨年からです。記憶していますが、平和活動を行う多くの団体にあって、仏教精神で活動を行う浄土宗平和協会だからこそ、教師としてすべき何かができるのではないかと考えたのです。

幼稚園や保育園の子どもたち、あるいは保護

者たちに、共に世界の子供たちに想いを伝えようと伝えることは、なかなか時間がかかることだと思います。まずは状況を知ってもらおうと、平和念仏募金を行っています。

今、途上国では教育を受けられない子どもたちが数多くいます。浄土宗平和協会が支援する団体にも、子どもたちを対象にした活動をする団体もあり、未来を担う子どもたちのために、将来的には浄土宗平和協会として、浄土宗平和協会と共に何らかの協力ができれば素晴らしいことだと思います。

我が国でも、豊かな心を育むために、ようやく宗教の役割に目を向けられつつありますが、私たち宗教者は、常日頃から身近な縁ある人々に、また同じ地球に住むすべての人々に対して、平和と幸せを願い、行動を起こすべき使命を担っているのだと思います。

これから、浄土宗平和協会の活動を通じて、微力ながら共生社会の実現に、寄与できればと思っています。

浄土宗は11月19日、広島市の妙慶院で行った本年度の「浄土宗差別戒名追善法要・世界平和念仏別時會」で、宗門の過去の戦争協力を懺悔し、平和を誓う「平和アピール」を発表、平和に対する貢献を内外に示した。アピール文は、浄平協（JPA）が専門委員会を立ち上げ、何度も推敲して作成した。

平和アピールは「本宗の近代において、（中略）様々な戦争協力の事実は否定することはできません」「世法の国策に従いかなる言動を行ってきたか検証を行う」と、反省の上に立った歴史的事実の検証を誓って、「戦争責任について自省し、アジア太平洋地域の人々の人権と尊厳を侵し、戦争による惨禍と多大なる犠牲を強いたことをここに深く懺悔します」と表明している。

アピール文作成にあたり、ことし春より、JPA 専門委員会を立ち上げ、浅野義光副会長、小林正道副理事長、宗議会から加藤良光

議員ら5人が起草委員となって、文案を作成した。

平和別時會では法要後、稲岡康純宗務総長、中村康雅宗議会議長、荻野順雄 JPA 理事長ら5人が登壇して、参加者200名がアピールを唱和した。

画期的な平和アピールで、平和法要ならびにアピールは、朝日新聞、読売新聞、地元の中国新聞などで報道された。



浄土宗平和アピール

浄土宗は2001年、「患者の自覚を、家庭にみ仏の光を、社会に慈しみを、世界に共生を」とする「21世紀劈頭宣言」を発表、世界平和について発言し、行動してきました。

しかしながら、本宗の近代において、軍用機を陸海軍に献納するなど、様々な戦争協力の事実は否定することができません。これに対し、例えば1994年、浄土門主は『太平洋戦争五十回忌法要』表白において、戦役に助力した重責に対する懺悔、すべての戦没者の鎮魂・慰霊、世界平和への祈念を表明いたしました。

わたしたちは、そのこころを受け、浄土宗が世法の国策に従いかなる言動を行ってきたか、歴史的検証を行うことこそ、世界平和の実現に、あらためて必要なことだと確信します。

わたしたちは、自らの愚かさを自覚したうえで、戦争責任について自省し、アジア太平洋地域の人々の人権と尊厳を侵し、戦争による惨禍と多大なる犠牲を強いたことを、ここに深く懺悔します。

わたしたちは、法然上人の念仏の教えにより、再び同じ過ちを犯さないこと、すなわち被爆国広島において非戦・非核武装を誓い、未来に向かって慈しみにあふれた共生・平和の社会を創るために行動することを、ここに宣言します。

平成20年11月19日

浄土宗宗務総長 稲岡康純



ミャンマー、中国・四川省災害で最終1230万円の浄財 ——現地より報告が続々



被災を受けた寺院（左）と、寺院の復興に励む現地の人々



復興後の寺院

浄土宗平和協会（JPA）が5月末行ったミャンマーサイクロン災害、中国四川省大地震災害被害者救援のための緊急募金で、全国浄土宗御寺院、JPA 会員から寄せられた浄財が、最終集計で548件12,333,786円にのぼり、世界仏教徒連盟（WFB）、ビルマ救援センター、ロックフェラー財団ブリッジファンドなどを通じて、現地に早急に贈られ、現地の寺院再建、被災者救援、被災者を中心とする教育支援などに利用されたという報告が続々、JPA 事務局に届いている。WFBからは特に、11月、世界仏教徒会議開会式冒頭で、表彰を受けた。

緊急募金の配分は緊急を要することで、一次、二次と分けて6月中旬、7月上旬の二度に分けて行った（ダーナ12号に既報）。最終支援配分は、全日本仏教会経由の、WFB 国際緊急救援基金に300万円、仏教NGO ネットワーク経由で、ビルマ救援センターに同じく300万円、米国ロックフェラー財

団ブリッジファンドに300万円、浄土宗系財団の報恩明照会のミャンマー寺子屋プロジェクトに50万円を至急贈呈した。また、残額は、



浄平協がWFBから表彰 ——ミャンマー・中国災害募金で



東京・浅草で11月14日から行われた世界仏教徒会議日本大会（世界仏教徒連盟=WFB主催）の開会式で、浄平協（JPA）は、ことし7月贈呈した平和念仏募金緊急募金の貢献に対し、表彰された。表彰式では、WFBのパン・ワナメッティ会長から、JPAの副総

裁宮林昭彦台下（大本山光明寺法主）に表彰状が手渡された。

緊急募金経費（約67万円、8月末現在）差し引きの上、JPA 平和基金に繰入の予定。また、募金者名簿は、ダーナ次号で掲載します。今回の緊急募金の贈呈で、各団体からは、様々な報告書がJPA 事務局に届けられている。ミャンマーからは、ビルマ救援センターから、JPAの資金が、地元の人々の寄り合いの場として、日常利用される寺院18カ所の復旧に利用されたという報告書が届いた。（写真参照）。また米国ロックフェラー財団からは、中国四川省アバ県にある5つの学校の復興支援に充てられると報告書をいただいた。WFBの国際緊急基金からは、主にミャンマーと深い関係のあるタイ国仏教会の主導で、ミャンマー仏教寺院の復興などに充てられたという報告をいただいている。

裁宮林昭彦台下（大本山光明寺法主）に表彰状が手渡された。

世界仏教徒会議は29年ぶりに日本で開催された。JPAは、5月に行ったミャンマーサイクロン災害、中国大地震災害救援のための平和念仏募金のなかから、全日本仏教会を通じ、WFB 国際救援基金に対し、300万円を二度に分けて贈呈した。JPAの募金は主にタイの仏教会を通じ、ミャンマーの災害復旧に利用された。

※写真はワナメッティ会長から表彰状を手渡される宮林 JPA 副総裁

混乱する現代社会に対し、われわれ浄土宗は何を放つ存在であり得るのか。法然上人の説かれた「愚者の自覚」に立ち返って、肥大する数々の課題をどのように向き合うことができるのか。前回につづいて、エンゲイジド・ブディズムについて、神仁師に寄稿いただきました。

こころの目覚めから世界の目覚めへ。スリランカのサルヴォーダヤ運動に学ぶ。—②

(財) 全国青少年教化協議会主幹
臨床仏教研究所 上席研究員

神 仁

前回、「エンゲイジド・ブディズム」について紹介するに当たり、ベトナム人僧侶ティック・ナット・ハンの教えと活動をもとに、その本義について考えてみた。その中で、今日、日本語訳として定着しつつある「社会参加型仏教」という言葉について、「社会参加はエンゲイジド・ブディズムの一側面であり、総体を表しているとは言えない」と申し上げ、その本義は「自己の^{かいほつ}開発と社会の開発を同時に行っていくことではないか」とお話しした。

つまり社会参加さえすれば、それがエンゲイジド・ブディズムであるということにはならないということである。たとえば日本の仏教は、第二次大戦中に「負の社会参加」を大に行ってきた歴史を持っている。仏教はあろうことか国威発揚の一つの手段と化し、出征し戦地に赴く若者の意識を鼓舞する役割を担っていた。「一殺多生」という言葉がまことしやかに語られ、菩薩の慈悲の表れであるかのように曲解されていたが、言うまでもなくそれは仏教が説く「不殺生」という根本の教えに相反している。

このような仏教のあり方をエンゲイジド・ブディズムと呼ぶことは到底不可能なことである。今日も行われている政治参加を含めて、誤った形で社会参加をしないために、エンゲイジド・ブディズムにおける「自己の開発」の側面を改めてここで強調しておきたい。

■「すべての目覚め」と「労働の分かち合い」

さて、今回は、ティック・ナット・ハンとほぼ時を同じくして、スリランカの地において花開いたエンゲイジド・ブディズムであるサルヴォーダヤ（サルボダヤ）運動についてご紹介をしたい。その上で、今日の日本社会への適応の可能性についてもお話してみたい。

サルヴォーダヤ運動は、貧しい農村の開発活動を通じて、自己の開発と社会の開発を半世紀にわたって行ってきた、優れた実践例である。サルヴォーダヤとは、サンスクリット語のサルヴァ（すべて）とウダヤ（目覚め）の合成語であり、「すべて

の目覚め」と訳されている。この言葉は、インドのマハトマ・ガンディーによって使われ始め、当初は「すべての福祉」という意味で使用されていたが、スリランカのA・T・アリヤラトネによって「すべての目覚め」と読み替えられた。

すべての目覚めとは、「自己の目覚め」「家族の目覚め」「地域社会の目覚め」「国の目覚め」「世界の目覚め」を指している。すべての目覚めが時系列的に行われるのではなく、同時並行でなされていくことに大きな意味がある。このことはティック・ナット・ハンのエンゲイジド・ブディズムについての認識と共通する点であり、縁起、とくに空間的な共時性を説く法界縁起に即した在り方である。

スリランカのサルヴォーダヤ運動の創始者であるアリヤラトネは、ガンディーから思想・活動の両面で大きな影響を受けながら、自身の経験と哲学を加味しつつ、この運動をスリランカ全土に広めていった。

そのきっかけは、アリヤラトネが1958年にコロンボのナーランダ高校で理科の教師を務めていたとき、学生を連れて被差別カーストの人びとが住む貧しい村に出かけ、井戸掘りや道路建設を共に行ったことにある。スリランカはインドほどではないが、カーストの差別が長らく続いてきた国であり、被差別カーストの人びとは、日常生活を営む上でのさまざまな点で差別を受けていた。上位カーストの人びとが使う井戸を使用することは禁じられていたし、僧侶であってさえも彼らからの布施を快く受け取ろうとはしなかったのである。

そのような環境の中で、学生たちは村の人たちと寝食を共にし、集会を重ねることによって、彼らにとって本当に必要なものが何かについて考え働いた。学生たちは自らこのキャンプを、シュラマ（労働・エネルギー）のダーナ（布施・分かち合い）として、シュラマダーナと呼んだのである。

このようなワーキングキャンプは他の学校でも取り入れられるところとなり、2年ほどの間に数百の学校で実施されるプログラムとなっていった。学生たちは社会人となった後も、リーダーとして運動を指導し、やがてそこに一般の人や僧侶も加わり、これまでの農村開発の在り方を超えて自発的・内発的な社会運動へと発展する。

アリヤラトネはこれをサルヴォーダヤ・シュラマダーナ・ムーブメントと呼び、現在まで1万を越える村や地域で活動

が展開されている。そして、活動の内容も教育・福祉・環境保護・平和推進活動など、さまざまな分野に広がり、それぞれに大きな実績を上げてきている。

■布施と四諦の読み替え

このように、サルヴォーダヤ運動においては、「布施」が活動の原動力になっている。しかしここでは、これまでの布施とは意味づけが異なっている。つまり、布施とは僧侶に対して行われる行為であって、それによって在家信者は功德を積むことができるという考え方が一般的だった。だがここでは、布施とは自分がもてるものを他者やコミュニティーのために提供するものであり、その対象は僧侶に限定されない。

そして、金銭ばかりではなく、労働力や時間、技能、知識などあらゆるものが布施されるものとなる。金銭の多寡によって功德の量が異なるとすれば、貧しい人間は功德を積むことができないことになる。それはブッダが説くところの教えにはそぐわないものであり、だれしもが平等に布施の機会を与えられるべきであるということであろう。

タイのエンゲイジド・ブディズムとも共通する点であるが、伝統的な仏教教理にこだわるのではなく、時代のコンテクストに合わせて積極的かつ柔軟に教理そのものを読み替えているところに大きな特徴がある。

このことは、布施のみならず四諦についても言えることである。たとえば、農村の問題を例に取るならば、苦諦は具体的に「さびれた村がある」という意味に解釈される。そこには圧政や病、沈滞や貧困といった現実がある。村人がまず自分たちの環境を直視し、気づくことが大切であることを教えている。

集諦とは苦しみの原因のことであるが、さびれた村を作り出している原因は、利己主義や無知、執着などだと説明される。それらが直接的な原因となって、村が持つ潜在性が開発されていないことを示す。また、植民地化から続く搾取的慣習や資本主義によって醸成された欲望もまた大きな原因となっていることを説く。

滅諦は、苦しみを終わらすことのできる希望であり、村の潜在性が開発され活力に満ちた状態になることである。それは無私、慈悲、布施、愛語、利行、同事といった仏教的な教えをベースにしたものである。

道諦は、苦しみを終わらす具体的な道であり。それはシュラマダーナとして総括される。村人がもてるものを布施することによって、教育、経済開発、健康増進、精神開発が具体的な方法で行われ、村が活力に満ちていく道である。

神 仁(じん ひとし)
1961年生。大正大学および駒澤大学で仏教学を専攻。1987年、文部省文化交流プログラムにより、ベナレスヒンドゥー大学大学院(インド)へ留学。同大学で教鞭をとり、帰国後、雑誌編集者を経て現職。専門は臨床仏教学。10代の終わりに、自身の「いのち」への問いから出家を志す。以来、「つがなり(縁)」をキーワードとして、教育・福祉系のNGO・NPO活動に取り組む。主な著書に『仏教教育の実践』(近刊)など。



■日本の社会問題への応用

実は昨年末、サルヴォーダヤ運動50周年を記念して、サルヴォーダヤ・ジャパン設立準備委員会が有志によって結成された。アリヤラトネ自身の積年の思いがここには込められていた。この会の活動の目的は主に二つである。ひとつはスリランカにおけるサルヴォーダヤ運動の支援を行っていくこと。もうひとつは日本社会の中で、サルヴォーダヤ運動を適用していくというものである。

発起人の一人として私が強調しているのは、とくに後者の方である。今日、日本の社会は少子高齢化と経済主導のグローバル化の波に揉まれ、さまざまな社会問題が起きている。地域共同体の崩壊、格差社会、ワーキングプア、ひきこもり、自殺……など、枚挙にいとまがないほど負の要素に満ちている。また、アメリカの金融機関の破綻による100年に一度とも言われる経済状況の悪化の中で、今後も深刻な社会問題が噴出してくる可能性が十分に予想される。

これは、90年代から国連で議論されてきた「人間の安全保障」10項目の中でうたわれる「最低限の生活水準の保障」が、GDP世界第二位の経済大国で危うくなってきていることを意味している。また、「基礎保健サービスの完全普及」や「普遍的な基礎教育の完全実施」といった点でも懸念が広がっている。

私は、このような社会だからこそ、日本におけるサルヴォーダヤ運動の可能性を追求したいと強く思っている。高度成長期からバブル期まで、右肩上がりの経済環境の中で、多くの人が、本来持てる本来の潜在能力を十分に開発することなく、他律的に生きてきたのではあるまいか。物事の成り立ちの本質に思いをめぐらせることなく、行政や企業の意のままに操られながら生きてきたのではあるまいか。

アリヤラトネがガンディーから受けた影響の一つが、「スワデーシュ・スワラージ」という理念、すなわち「自産自治」であった。己を統治するのは己自身であり、己が生きていく糧は己自身で生み出すという理念である。それは自己の可能性を最大限に開発していく道である。

私たちが今なさねばならないことは、サルヴォーダヤ運動が培ってきた実績とそのメソッドを参考にしながら、時代に即応した仏教教理の現実的かつ大胆な読み替えを行うことではないだろうか。仏性の開発というものをどのように捉え直していくのかを考え、そして、さまざまな社会苦を四諦にあてはめ、原因や解決策を探り具体的な行動に移していくことが求められている。日本におけるエンゲイジド・ブディズムの可能性を探るために大切なことは、今を生きる一人の仏教者として、現実的なレベルで答えを出していくことではないかと思っている。

平和NGOとして 紛争解決の活動を続けて

今回ご紹介するNGO「ジュマ・ネット」は、2007年からの支援団体です。ジュマ・ネットはバングラデシュ、チッタゴン丘陵地帯における先住民族とバングラデシュ政府との間で続いている対立を緩和し、具体的に平和を促進するために、有志が集まり2002年3月に設立された団体。弱い立場に置かれた先住民族の実情を伝えるとともに、紛争解決と和解促進のための話し合いの場作り、紛争によって被害を受けた人々の支援を必要に応じて実施しています。

今回のレポートでは、ジュマ・ネット代表の下澤嶽さんに、チッタゴン丘陵の現状や、その活動についてお聞きしました。

チッタゴン丘陵の現状

チッタゴン丘陵地帯はバングラデシュ東南部に位置し、バングラデシュ唯一の広大な山岳地帯。バングラデシュ国土の10%にあたるこの場所では、古くからモンゴロイド系の先住民が焼き畑農業を中心とした生活を営み、多数民族であるベンガル人の文化とは異なった文化が営まれてきた。

◇

下澤●「シャプラニール」(72年に設立された日本の草分け的国際協力NG

O)に入り、現地の駐在員に選ばれ、88年から93年までの5年間バングラデシュに滞在しました。その間は、途上国の開発のイロハを勉強するいい機会でした。そのとき実は唯一の丘陵地帯といわれている南東部のチッタゴン丘陵が立ち入り禁止地区でした。

政府は「紛争地域で危ないから、それにはいっさい支援はしないように」と奥歯にももの挟まった言いかたで言われました。問題意識を現場でもち始めたころ、インド国境沿いのロガンというチッタゴン丘陵北部で虐殺事件が

おきました。

◇

チッタゴン丘陵地帯問題が顕著になってくるのは、1971年に現在のバングラデシュ体制になってから。先住民族のもつ文化や人権を無視する政府と、先住民族の関係が悪化していく。先住民族とバングラデシュ政府軍との戦闘状態は、紛争は92年の休戦宣言まで続いた。

形だけの和平協定

下澤●多くのNGOにとって、政治問題についてふれることはタブーでした。でも私としては、弱者が抑圧されているというのに、中立的なNGOがなにもできないことは本当につらかった。92年頃、意識的に先住民族の方にコンタクトを取ったり、勉強している方に会って情報を得るようにしました。聞けば聞くほど、チッタゴンがひどい実態だということがわかってきました。

ただ、私の正義感だけで、『シャプラニール』の名前で活動をするのはいいことじゃないなと思い、辞めたらすぐ現場に行きました。

◇

97年12月には、チッタゴン丘陵人民



08年4月に襲撃されたジュマ集落の放火現場(写真提供:ジュマ・ネット)



浄平協の「平和念仏募金」は、世界のこんなところで活用されています
浄平協が支援するその他のNGO(平成20年度/順不同)

●日本国際ボランティアセンター(JVC)

地域住民の自立を目指した農村開発を進めるNGO。ラオス・カムアン県における持続的な農業および森林管理プロジェクトを浄平協が支援。主に農村開発として、森林保全や農業・生活改善活動実施のための交通費、宿泊費などに充当。

●パレスチナ子どものキャンペーン

パレスチナの子どもたちへの人道的支援を続けるNGO。浄平協の支援は、パレスチナ難民キャンプの子どもたちの教育支援として、補習クラスの教材費、指導員の人件費に充てられる。

●反差別国際運動(IMADR)

世界から一切の差別撤廃を目指す国際NGO。インド・ダリット子どもデイケアセンター・プロジェクトを浄平協が支援。デイケアセンター6軒分の運営費用、デイケアセンター1軒分の新規建設費用に充当。

●シヤンティ国際ボランティア会(SVA)

アジアにおける教育・文化活動を通じて平和な社会の実現を目指すNGO。浄平協の支援は、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプにおける図書館活動として、カレン語の絵本印刷費(1タイトル)・図書館運営費・スタッフ人件費の一部に充てられる。

◇

下澤●07年1月の非常事態宣言以降、チッタゴン丘陵では軍による管理がさらに厳しく、多くのジュマの活動家が逮捕、拷問を受けました。市民グループによる平和活動にも大きな影響を与えています。このような状況の中で、カグラチャリ県では激しい土地収奪や仏教寺院の破壊などが続いているのが現状です。

「平和」というのが、我々の活動のキーワードなのですが、NGOがまず一番初めにすべきことは、問題の早期発見とそれを国際社会に知らしめるということ。外国人が、こういった紛争を止めるのは、国際的な圧力しかないと思えます。現地の復興は、結局はその土地に生き続ける現地の人々がするしかない。我々ができるのは、その手助けでしかないと思っています。

外部の私たちは、その状況、あるいは問題を世界中に向けて情報を流すという広報をし、いろんな提案をしていく中で、とにかく和解の席につなげていくといういい意味の圧力を作っていくことに尽力していくべきだと考えています。

和平協定が結ばれもう終わったと、ジュマの問題に対する国際社会の関心が下がっています。これからも、いろんな国のNGOと協力して、チッタゴンの平和を願う活動を続けていきたいと思えます。



復興について話し合う女性たち(写真提供:ジュマ・ネット)

連帯連合協会と政府の間で和平協定が結ばれる。チッタゴン丘陵に平和が訪れるのではないかと多くの人は希望を持ったが、現時点に至っても和平協定の多くが実施されておらず、政府と先住民族との間の緊張感は、現在もまだ続いている。

◇

下澤●97年に和平協定が結ばれたことは、現地での活動に本腰をいれるひとつのきっかけとなりました。以前よりは、現地に入れるし、そういう意味ではやりやすい環境になってきたんです。和平協定後の2002年に私たち『ジュマ・ネット』としての活動が始まりました。

現実的には、たとえば02年に現地を訪問した時は7ヶ所のチェックポイントがあり、それでも一応、建前上は入ってもいいと。そのかわりあらゆる検問で住所や日程を書かされて、行った先では、秘密警察がきて、居場所を確認するという状況でした。

和平協定以降、私たちも少しは状況が良くなっただろうと期待しましたが、協定はほとんど守られてなかった。ジュマ側は、約束どおり銃を放棄して戦争をやめたわけですけども、軍隊という圧倒的な力が残ってしまった。非常に不均衡な政治状況だということが入ってすぐわかったんです。

キーワードは「平和」

ジュマ・ネットの活動は、紛争被害を受けた青少年の支援。少数民族への襲撃、土地や財産の強奪、女性のレイプ……、家や家族を失った人も少なくない。レイプ被害者が受けた心の傷に対するケアも必要だ。教育支援を始め、生活復興支援、レイプ被害者支援など、その活動は多岐にわたる。



支部設立へ——滋賀教区

浄土宗平和協会（JPA）の支部が、他教区に先駆けて、滋賀教区で開設される。理事会で支部規約（浄平協準則）が承認を受け、来年4月初頭に支部設立総会を開催する。滋賀教区で、浄平協会員を募集している。

支部会則によると、JPAが行う様々な事業を支援するため、活動を行う。支部長は教区長、副支部長、理事、事務局長、会計などの役員を置く。支部で独自の財源（本部交付金）を持ち、独自の活動もできる。

現在、同教区内のJPA会員は20人（寺院）で、山川正道JPA常任理事が中心となって、さらに会員を増やすよう活動している。

今後、平和念仏募金活動、平和のための研修会ほか、数年中に現在JPA本部で行っている希望図書贈呈活動「ブックギフト in Tokyo」の関西版「ブックギフト in Kansai」の活動なども行う計画だ。また、関西地区の各教区でも、支部設立の動きがあり、JPAの全国展開活動が加速しそう。

会員資格が変更（総会承認の後に）

浄平協の会員分類が、変更になる。来年度総会にて会則を変更して、正式決定後、変更のお願いを会員、全国浄土宗寺院、教師、寺族にお願いする。

現在、会員分類は以下の通り。

- ①団体（寺院）会員…年会費1万円
- ②個人会員…年会費5千円
- ③賛助会員（檀信徒会員）…年会費2千円
- ④賛助会員（法人会員）…年会費1万円

団体会員、個人会員のみ、総会に出席して会の活動に参加できる。賛助会員は、会報に名前を掲載するほか、会報配布、スタディーツアーなどが割引されるなどの特典がある。

来年度以降、この分類を変更し

て総会で審議いただいた後に、
①正会員（資格は浄土宗教師、寺族のみ）…年会費1万円
②準会員（教師、寺族が対象、住職は準会員にはなれない）…年会費5千円、
となる予定。

正会員、準会員は、総会に参加して会の活動に参加できるほか各種浄平協の案内を送付する。その他の賛助会員（檀信徒会員、法人会員）資格、特典などはこれまで通り。

会員がことしも大幅増加

浄平協（JPA）の会員が、ことしも大幅に増加している。ことし

10月末現在で219人（寺院）となり、本年度からの新規会員も88人と大幅に増加しており、事務局も嬉しい悲鳴を上げている。

新規会員で、大幅に増加している教区は、支部設立を目指す滋賀教区20人（団体個人を含む）、東京教区19人（同）など。会員はほぼ全教区に存在し、寺族、副住職などの加入も目立っている。会員は随時募集している。入会希望は、宗務庁人権同和室（電話075-525-0484）担当富田へ。

人権を考える研修会に講師派遣

浄平協（JPA）は、11月14日、大本山増上寺で行われた東京教区第9回人権を考える研修会に講師を派遣、荻野理事長があいさつを行った。

派遣した講師は、昨年度JPAスタディーツアーで協力をいただいた反差別国際運動（IMADA）の森原英樹事務局長、「インドのカースト制度の現状」と題して講演を行った。荻野理事長は、スタディーツアー参加の印象などについて、あいさつをした。



あいさつする荻野理事長

賛助会員パンフレットを作成

浄平協（JPA）は、本年度から檀信徒、関係団体などに対し、賛



助会員を募集している。このため、専用賛助会員募集パンフレットを作成、各正会員などの希望に応じて配布している。

同パンフレットは、振込用紙を兼ねたカラーパンフ。「浄土宗平和協会の活動にあなたも参加してみませんか」と記し、JPAの4つ活動（平和念仏募金運動、ブックギフト事業、浄土宗平和賞、スタディーツアー）などの解説を掲載している。

賛助会員になると、会報「ダーナ」を年2回送付するほか、スタディーツアーの参加費が割引になる特典がある。

プレゼンテーション用コンテンツを作成中

浄平協（JPA）は、宗内の各種研修会や会議などで、手軽に会の説明ができるようパソコンで簡単に、プロジェクターを使ってPRできるようにプレゼンテーション用のソフト（コンテンツ）を作成している。写真は制作中の内容。

会員増強のために、一目でJPAの活動が分かるように作成している。協会の活動の写真、その理念、歴史などを数分でプロジェク



ターで解説、表示できるよう作成中で、本年度中に完成の予定。

JPA副理事長、企画委員がWFBの役員に就任

浄平協（JPA）副理事長の小林正道師（東京教区妙定院住職）が、世界の仏教団体で作る「世界仏教徒連盟（WFB）」の副会長に就任、また浄平協企画委員の戸松義晴師（東京教区心光院住職）が、同WFBの執行役員に就任した。

小林師、戸松師とも11月14日に東京・浅草ビューホテルで行われた世界仏教徒会議日本大会（WFB主催）の席上、選挙で選出された。

小林師はWFB加盟日本団体の全日本仏教会・常務理事、戸松師は同会の国際交流審議会委員。国際色豊かな役職への就任で、JPAの国際救援活動にも協力していただく。



小林正道師

JPA東京事務局より

報告●浄平協事務局・中野隆英

第1回ブックギフト、別掲の通り大成功でした。

しかし初めての事業、たいへんな仕事量で、担当のS氏は八面六臂の大活躍です。まして11月の23日はご子息の結婚式で、しかもご自坊での式であったとのこと、準備段階からたいへんなご苦労だったことでしょう。東京事務局の責任者H氏も、11月14日にご令嬢が結婚なさいました。

慣れない大イベントの裏方は、文字通り右往左往の連続です。授与式当日も全くのぶっつけ本番。進行役の私は、エレベーターを待つ時間も惜しんで、1階ロビーと2階本堂との階段を何回往復したことでしょう。

しかし、参加してくれた留学生は、とても感激してくれたようで、多くの感謝の言葉を頂戴しました。うれしそうな顔を見ると、それまでの苦労も忘れてしまいますね。兎にも角にもお疲れ様でした。そしてS氏、H氏、本当におめでとうございました。

さて、今度はJPAの新企画第2弾「浄土宗平和賞」が始まります。こちら大きな事業です。会員の皆様、ご期待ください。そして、関連記事をよくお読みいただき、ご推薦のご協力をお願いいたします。地道に活動していらっしゃるご寺院のご住職、寺庭のみなさんにスポットをあて、その小さな光が世界の平和につながる大きな心の輝きになることを願い、さあさあ休んでなかいられませぬよ。

◎ 会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



JPAからの援助物資を配布される被災者（ミャンマーのサイクロン被災地）

平和、共生、みんなのために

【入会要項】

1 対象

浄土宗教師・寺族・団体(寺院)・檀信徒

2 正会員会費

個人会員 年間 5,000円(一口)
団体(寺院)会員 年間 10,000円(一口)

3 賛助会員会費

檀信徒会員 年間 2,000円(一口)
法人会員(寺院以外) 年間 10,000円(一口)

◎ 賛助会員募集

浄土宗平和協会 (J P A) の活動に
あなたも参加しませんか？

JPAは、本年度から新たに、檀信徒、一般企業団体も賛助会員として参加できます。

賛助会員は、会報ダーナを年2回送付するほか、

スタディーツアーに割引価格で参加できます。また企業団体対象の賛助会員法人会員は、御社のお名前を会報に掲載します。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

1 平和念仏募金運動

NGO（国際協力のための市民団体）は、世界中のさまざまな人々の役に立っています。「平和念仏募金」はNGO支援を通じて、あなたの善意を世界の支援現場に直接届けています。

2 ブックギフト事業

ブックギフト事業は、留学生皆さんへの激励の心をこめて、お世話になった世界中の皆さんへのお返し的心をこめて、学業に必要な図書をプレゼントをさせていただき事業です。

3 浄土宗平和賞

「社会参加する仏教」を志向し、幅広い分野で公益活動を行っている浄土宗寺院・教師または浄土宗教師が代表を務める団体を顕彰し、支援します。

4 スタディーツアー

スタディーツアーでは、NGOの国際支援の現場を訪ね、国や民族の違いを超えて共に生きる道を考えていくことを目的とし隔年で実施しています（浄土宗平和協会会員は一般より安く参加できます）。

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を郵送させていただきますので、協会までご請求ください。

浄土宗平和協会 (JPA)

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内
電話075-525-0484 Fax075-531-5105 メールjinken@jodo.or.jp
郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】

